

エ 徳川と〜

出身は河南省上蔡県で、今年で数えの 83 才です。当時 17 才で兵隊にとられて、6 ヶ月ほどたった戦闘のとき、1944 年 4 月に捕虜になりました。捕虜になって鄆城(ほんじょう)県に連れて行かれました。鄆城県の監獄に押し込められました。そこで体調が悪くなって 3 日間何も食べられず寝たままでした。そのとき、劉老貴さんが民間の治療を知っているということで、自分のズボンを脱いで下に敷いて、上着を私に掛けてくれたりして面倒を見てくれて、体調が回復しました。そこでの食事は皮をとっていない粟の生煮えのものを食べるのができただけでした。それも 1 日 1 碗で水はなかった。文句を言うと、「お前は国民党の兵士なんだから敵だ。文句を言うな。」と殴られた。監獄の中では死んだ人もいた。飢え死です。鄆城県の監獄から、漯河(らか)の駅に連れて行かれ日本兵が護送する中、有蓋列車に乗せられ入り口を鉄線で閉められました。山東省の新華院に送られた。その途中食べ物も水もありません。3 日間かかりましたが、有蓋車は閉め切られたままで、トイレもなく、下痢していてもそのままで大変でした。その中で 2 人が死んでしまいました。新華院は大きな収容所で周りには高い塀があり、鉄条網があり、その外には堀があり、日本兵が監視していました。新華院に入れられたら外へ出ることはできませんでした。新華院で隊の編成があつて、100 人で 1 隊、三つの隊があつて、一つの隊をさらに 20 人を一つの班に分けられ、私は 5 班でした。新華院ではうすい掛布、上下の服、靴が支給されました。着替えの服はありません。夜寝るとき、多分逃亡するのを恐れてだと思いますが、服を全部脱がされて寝ました。就寝のラッパが鳴るとすぐ寝ないと怒られました。木の床で体がくっつくような狭い場所でした。布団、毛布など

もなく下は木の床でした。1日マントウ2個でした。足りませんが他には何もありませんでした。体をこわしたり飢え死したりしてたくさんの方が亡くなりました。亡くなると馬車で外へ運び出しました。新華院の監視は日本兵でした。夜トイレへ行くときは報告して許可を得ないといけないのです。もちろん裸のままで行くのですが、あるとき間違っ てトイレの方向じゃない方へ行ってしまうと、逃亡すると思われてすぐにつかまえられて、「バカヤロウ」と言われ長い間ひざまずかされていた。仲間が弁解してくれてやっと戻ることができました。新華院から青島へ有蓋車で連れて行かれた。丸一日位で着いた。一晚留め置かれた。そこは港の倉庫でした。翌朝、貨物船に乗せられた。いったいどこへ行くのかも分からなかった。船の中では波も大きく食べる物も十分でなく大変でした。7日間かかって着いたところは下関でした。下関に着いてやっと日本へ連れて来られたのだと分かった。とてもつらく帰りたいけど帰れないという思いでした。下関から神戸へ連行されました。神戸に着いて木造の建物に入れられ日本語を教えられました。(日本語で)「かけ足前へ進め」「番号1、2、3、4、5、6、7、8…」神戸では船から鉄や石炭の荷下ろしをさせられました。何ヶ月いたか覚えていませんが、神戸から七尾へと連れて行かれました。七尾に着いてから仕事もきついし、家のことを思うし、帰ろうと思っても帰れないしつらかった。七尾では木造の建物に入れられました。宿舎の周りは2~3mの高い塀がありました。高さは2~3mありました。塀はとても超えられるものではありません。宿舎からの出入りは自由にできません。入り口には警察官が監視をしていました。宿舎から仕事に出るときは日本人の監督が来て、何人かを集めて並んで列をつくって歩いて行かされました。並んで行くとき、すこしでも遅れたり、列が乱れたりするとピンタを張られました。港では石炭、鉄、大豆などの荷役をさせられました。大豆は麻袋で担ぐ、鉄は抱えて運ぶ、それで船からの荷下ろし、倉庫への積み込み、貨車への積み込みでした。大雨や大風の日には倉庫の中の仕事をさせられました。麻袋1袋は200斤、100kgあります。4人が持って肩に乗せました。倉庫へ荷を積むとき5~6mの高さに積みます。踏み板をつかって上へ上へと積みます。踏み板は揺れて非常に危ないです。私は落ちたことがあって足をいためましたが治療はしてもらえませんでした。監督は会社の間人だっ たろうと思います。監督からいつも殴られたり、罵られたりしていました。仕事が遅れたり、遅く歩いたりすると怒られました。(日本語で)「バカヤロウ」「早くしろ」などと言われ、ピンタを張られたり足を蹴られたりしました。他にも棍棒やベルトみたいなもので殴られました。仕事は夜が明けたら出され、作業は積み荷がなくなると終わりませんでした。日が落ちてからも働かされることがしょっちゅうでした。港の現場で働いていたときは現場で昼ごはんをとらされ、米ヌカやフスマでつくったビンズで1回2個でした。1日3食で1回2個ですが病気やケガなんかで仕事ができないと、1回1個に減らされました。栄養状態は悪くみんなやせて歩くのも困難になっていました。作業中に水は飲めません。休憩時間もあります。宿舎に食堂や風呂はありません。寝床は下に何も敷いていなくて木の床で、肩幅しかなく寒くなると体を寄せあっていました。七尾に来て服の支給はなく麻袋をまとうしかありません。着替えはなく洗濯もできません。監督が目を離しているときに海で体を洗うしかありません。靴もすでになく、裸足でした。風呂にも入れず衛生状態も悪く、服も洗濯し

ないし、ノミやシラミもいっぱいいて、かきむしったりして皮膚病になる人も多くいた。仕事が終わって帰るときに何か持っていないか体をチェックされました。飢えてどうしようもないので豆かすなど持って行って見つかったら、「バカヤロウ」と言われてビンタをはられました。病気になった人はとても多かった。衛生状態も悪い、食べる物も十分でない、帰りたいと思っても帰れないので気持ちが滅入ってしまう、ということで病気になる人がとても多かった。治療してもらえない。賃金は一銭ももらっていません。帰国のときにももらっていません。日本の敗戦は神戸から2人来て知らせてくれたので、やっと分かりました。帰国のときは七尾から列車に乗って九州へ行って、船に乗りました。塘沽に着いて天津まで列車で行き、北洋大学に受け入れのところがありませんでした。家族とは連絡もとれず、お金もなかったのもので、北京の国民党の軍隊に入りました。共産党に無血開城されて、私たちは共産党軍に改編されました。私たちの部隊が黄河のそばまで行ったときに私はそこから離れて家に帰りました。母は再婚してはいなくなっているし、2人の弟のうち1人は飢え死し、もう1人の弟はよそにもらわれていっているし、1人の妹も飢え死して家で誰もいませんでした。帰ってからも日本へ行った悪いやつだということで批判を受けました。七尾で一番つらかったことは、食べる物も十分でないのにきつい仕事をさせられ、担げるような体力もないのに担がされ、運べないと殴られたことです。日本でつらい思いをしたのに何の報酬もありませんでした。日本の政府と企業にはきちんと賠償をしてほしいと思います。裁判所はきちんとした審理、判断をして下さい。(日本語で)「ありがとうございます」